

I. 神奈川県内 a. 関東ローム層

(8) 箱根東京テフラ 溶結凝灰岩露頭剥ぎ取り標本

標本番号 KPM-NP 17

標本名 箱根東京テフラ 溶結凝灰岩露頭剥ぎ取り標本

大きさ 幅 0.65 m, 高さ 1.1 m

重量 11.1 kg (板付き)

形状・展示・収納状況 板に固定した状態で大型移動棚に収蔵

採集地 神奈川県小田原市風祭

緯度・経度 N35°14'43", E139°07'23"

標高 70 m

露頭の種別と現状 採石場跡の人工露頭、現存

露頭面の向き、傾斜 N45°E、60°N

堆積物の種別 弱溶結火砕流堆積物 (陸成層)

年代 660 ± 5.5 ka (箱根東京テフラ, 青木ほか, 2008)

採集作業者 森山哲和 (考古造形研究所)

採集立会い者 笠間友博

採集日 2011 年 11 月 15 日

関連文献等

高橋正樹・内藤昌平・中村直子・長井雅史, 2006.
箱根火山前期・後期中央火口丘噴出物の全岩化学組成. 日大文理学部自然科学研究所研究紀要, (41): 107-118.

笠間友博, 2011. 神奈川県小田原市風祭に分布する HK-T(pfl) 溶結凝灰岩の層位的意義. 日本地質学会 第 118 年水戸大会講演要旨, R8-P2.

解説 神奈川県小田原市風祭から入生田にかけて、かつて石材として利用された (クラ石などと呼ばれた) 溶結凝灰岩が存在する。高橋ほか (2006) は全岩化学組成から、これを箱根東京テフラの軽石流堆積物 [Hk-T(pfl)] に対比した。笠間 (2011) は、火山ガラスの屈折率から、Hk-T(pfl) のうち横浜方面に分布する flow unit 群に対比した。風祭、入生田地域の早川の谷には、100 m 近い軽石流堆積物が堆積し、中下部に厚さ 10 m ほどの弱溶結部が形成されたようで

ある。剥ぎ取り標本はその弱溶結部を採取した。荷重を受けて扁平に変形した黒色の軽石が見られる。採石場跡の良質な石材を産したと推定される層準には、横方向に坑道が掘られている。本標本採取層準はその 3 ~ 4 m 上位である。

記録者 笠間友博



図 1a-8-2. 剥ぎ取り標本の採集露頭。

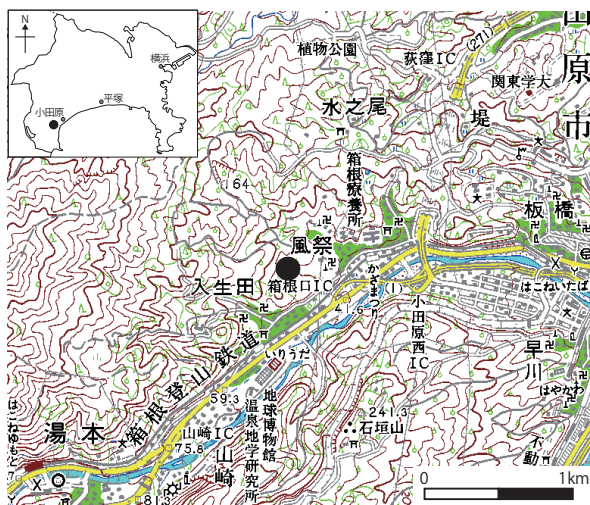


図 1a-8-1. 採集地点 (国土地理院発行の数値地図 50,000 (地図画像)「埼玉・東京・神奈川県」を使用)。

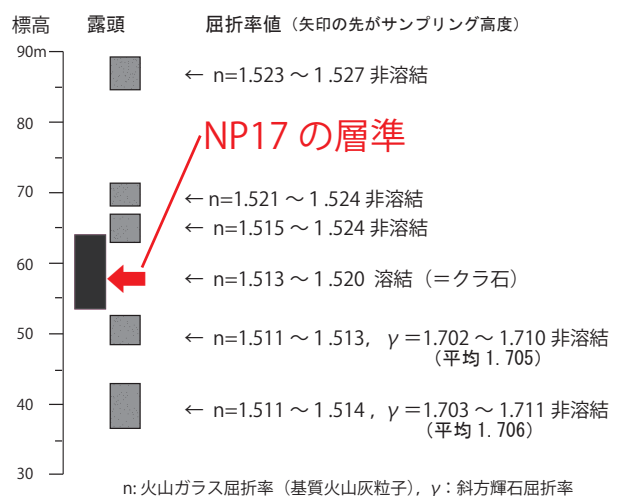


図 1a-8-3. 剥ぎ取り標本の採集層準 (笠間, 2011)。



図 Ia-8-4. 剥ぎ取り標本の採集の様子.



図 Ia-8-5. 剥ぎ取り標本の写真.